

全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

小学校では

▼国語、算数、理科とも、全国平均正答率（以下、全国値）を10ポイント以上上回る結果でした。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、国語については、全ての領域で全国値を上回る結果でした。「書くこと（書く能力）」については、全国値を上回ったものの、平均正答率が6割台で、課題が伺える部分もありました。

また、表現の効果を考える適切なものを選択する問題においては、示された部分がどのような効果をもたらすのか考えながら読み取る問題についても正答率がやや低い結果となり、今後、力をつけたい部分と言えます。

算数についても、全ての領域で全国値を上回り、その割合も全ての領域が7割



以上の正答率という結果でした。全体的には全国値を上回ったものの、示された場面において目的に合った数の処理の仕方と考えたり、数量の変化と割合の変化との関係について考察したりする問題に対する正答率がやや低く、課題が伺える部分もありました。

理科については、全体では全国値を大きく上回ったものの、領域別平均正答率

児童、生徒への指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が今年5月に行われました。調査は、国語と算数・数学、理科の各3教科と、児童・生徒質問紙調査（生活習慣、学習意欲・環境などの調査）が行われました。

中学校では

▼国語、数学、理科とも、題意の理解や読み取る力の育成が求められます。

国語については、全国値を大きく下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「読むこと」の領域においては、全国値には届かなかったものの、全国値に近い平均正答率でした。一方で、特に「話すこと・聞くこと」の領域において、他領域に比べて大きく全国値を下回り、課題が伺えました。問題形式別では、特に記述式の問題に対する正答率が大きく下回る結果でした。



数学については、全国値をやや下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「図形」領域のみが全国値をやや上回り、それ以外の領域については全国値を下回る結果でした。問題形式別では、短答式の問題に対する正答率が全国値をやや下回り、それ以外の問題形式別正答率は全国値を大きく下回る結果でした。

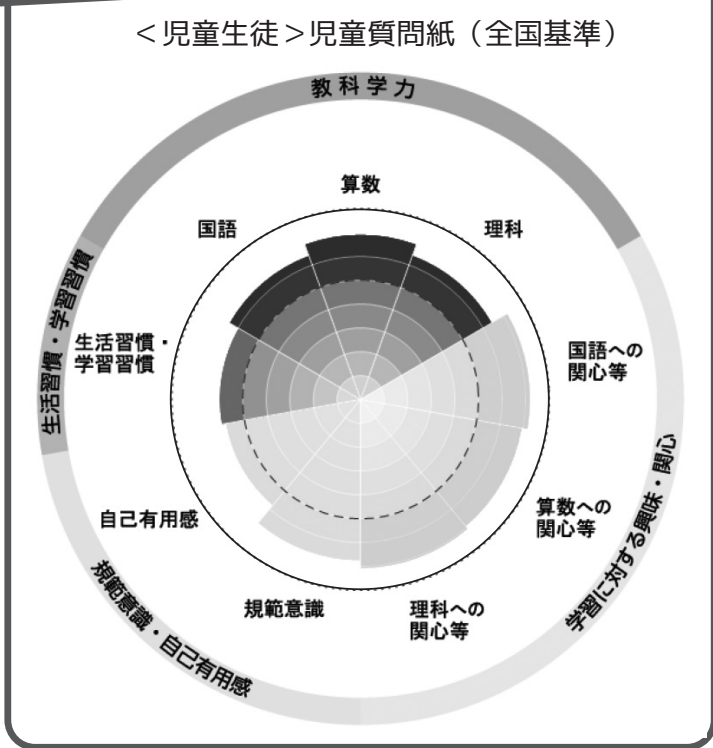
のうち、A区分「エネルギーを柱とする領域」では、全国値をわずかながら下回る結果でした。物の性質を基に、実験と照らし合わせながら考察をしたり、実験で得た結果を基に解釈し、自分の考えを持ち説明したりする問題に課題が伺えました。

▼自己有用感については良好、教科への関心についてもとても高い傾向にあります。

質問紙の回答について、肯定的な回答が全国値を上回っている回答が全体の9割以上ありました。

教科への関心や必要性、授業に対する理解度などについても、昨年度同様高い値でした。昨年度の調査で課題としてあげられていた、「記述式の問題への取り組み方」について、今年度の回答では「最後まで解答

調査結果チャート（日野町小学校）



理科については、全国値をやや下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「科学的な思考・判断・表現」に関わる領域が大きく下回る結果でした。無答率は全体的に低いものの、基礎・基本の定着に課題が伺える結果でした。

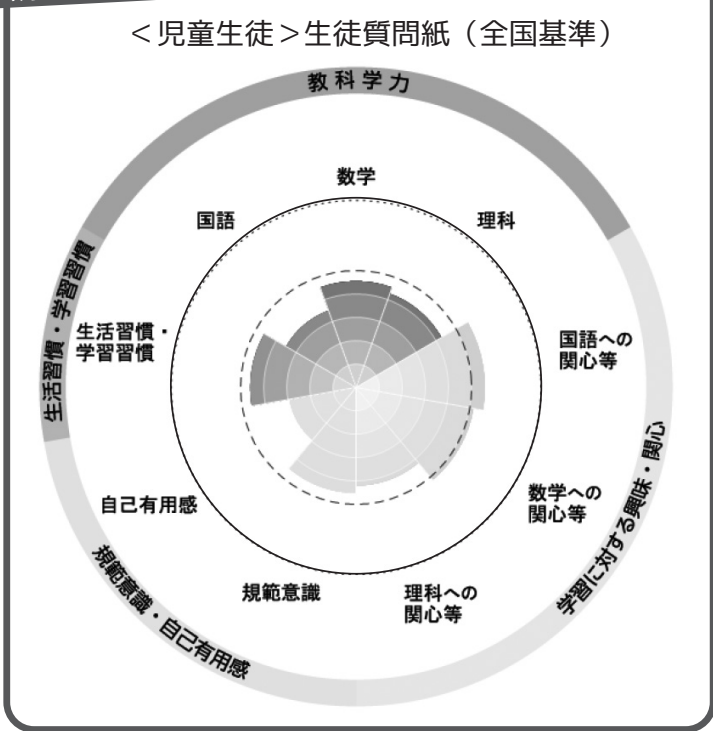
▼学習に対する興味関心は上昇、自己有用感の高揚に課題が見られます。

質問紙の回答について、肯定的な回答が全国値を上回っている回答が全体の5

割以上ありました。地域との関わりに関する項目や、PCやタブレットなどのICTの効果的な利活用に関わる項目に対しては、ほとんどが全国値を上回る結果でした。

教科に対する興味関心や将来への有用感などの項目については上昇傾向にあるものの、自分の将来への意識や自己有用感については課題が見受けられます。また、質問紙の中で問われた「記述式の問題への取り組み方」について、「書く問題

調査結果チャート（日野町中学校）



で解答しなかったり、書くことを途中であきらめたりしたものがあった」という回答が全国値より高く、課題であることが伺えます。

■成果のみられる部分

□小学校では、国語、算数、理科ともに学習への興味関心について肯定的な回答が非常に高く、さらに教科学力も、全国値を大きく上回っています。児童の学習に対する意欲が理解にもつながっている大きな成果が見られます。

□中学校では、国語の言葉の特徴や使い方に關する事項で全国値を上回るものがあり、語句の理解について成果が表れているところも見られます。

□小学校、中学校ともに、学習に対するICT機器の活用について肯定的な回答が全国値を大きく上回る項目が多く、教師が授業の中で積極的にICT機器を活用するとともに、児童・生徒も意欲的に利活用していることが伺えます。

□小学校、中学校ともに、

地域や社会に対する意識の高まりが見られ、全国値も大きく上回っています。それぞれの学校における、地域学習をはじめとしたふろさとキャリア教育に関する取り組みの成果が見られます。

■課題のみられる部分

■書くこと（書く能力）

求められた条件に当てはめながら書いたり、必要な情報を取捨選択し、自分の考えや意見を的確に記述したりする力をさらに伸ばしていく必要があるといえます。

▼各教科は正答率、ほかの項目は質問紙調査での肯定的な意見を、全国平均と比較して表しています。

▼中央の-----線は全国平均です。-----線より外側に出ている項目は全国平均以上、-----線より内側は全国平均未満を表しています。外に広がっている項目ほど、正答率が高い、肯定的な意見が多い結果を表しています。（中学校の結果も同様です）

この課題は、国語、算数、理科の各教科共通の課題であると言えます。自分の力でまとめの文を書き上げる活動を意図的に組み込んだり、日ごろの授業の振り返りにおいて、視点を与えて取り組んだりするなど、指導者が意図的に取り入れていくことも対策の一つと言えます。

また、児童生徒がお互いの考えを交換する機会を多く位置付けることで、互いの意見を尊重し理解する力を育成すると同時に、書く力にもつなげることができると考えます。

■読むこと・表現すること

各教科とも、多くの情報から必要な情報を読み取ったり、取り出したりして考察する問題が出題されています。表現の効果を考え、読み取る問題、示された解答方法を自分の言葉を使つて的確に表現する問題、実験の結果を自分の考えを交えながら表現する問題など、読み取る力と同時に表現する力が試される問題に課題があると言えます。

この力は先に述べた「書くこと（書く能力）」にも

大きく関わってきます。指導者が、日ごろの授業の中で、学習指導要領の各領域における育成すべき力を関連付けながら、工夫した学習活動や授業展開を意識することもこれらの力の育成につながると考えます。

より一層の推進

■興味関心が生きる授業づくり

小学校では全ての教科でその必要性や重要性など、教科に関する興味関心は高い傾向にあります。また、中学校では、教科によつては肯定的回答が低い教科もありましたが、全体的には教科に対する興味関心が上昇傾向にある状況です。

小学校では高い教科に対する興味関心が、「教科学力」にも現れているという見方もできます。一方、中学校では「教科学力」には大きな課題が見えたこの度の結果ではありましたが、他調査では全国値との差はあるものの、経年の推移では徐々に成果が見られる部分もあります。

昨年度の課題としてもあげられている「児童・生徒

の興味関心が、学習への意欲や学力の定着へとつながる授業づくり」についても、引き続き取り組んでいくことが必要と考えます。

■ふるさとキャリア教育の推進

地域や社会への関心に関わる質問項目では、小学校、中学校ともにほとんどの質問項目で全国値を上回っています。特に、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか」という質問項目に対しては、肯定的な回答が、小学校では全国値を30ポイント近く上回り、中学校では10ポイント近く上回っています。

町では、地域との連携や地域人材の活用、保小中、さらには高校との連携など、積極的に行い、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進による、地域とともにある学校づくりを進めています。

また、「ふるさとキャリア教育モデル事業」のモデル地区としての取り組みも進めています。小学校では、ふるさとキャリア教育を研究の柱に据え、子どもたちが自分たちの地域で、地域



のものと人にたくさん触れることを通して、地域を愛する子ども、自分の生き方を見つめることのできる子どもの育成をめざした実践を重ねてきました。

令和5年4月の日野学園の開校に向け、今現在行っている校種間・異校種間連携をベースとしたスムーズな移行をめざすと同時に、ふるさとキャリア教育の推進にもより一層力を入れて取り組んでいきます。

今後の取り組み

■学ぶ意欲が「わかる学び」につながる授業づくりをめざします。

■自分の考えや思いを整理し、的確に書くことのできる活動の確保や時間の設

定、展開の工夫など、各教科でつけた力がさまざまな場面で活かされることをめざします。

■「めあて・まとめ・ふりかえり」を意識した授業改善を図ります。

■必要な情報を取捨選択し、効果的に活用するとともに、自分の考えを的確に表現できるような機会を設置した授業づくりに取り組みます。

■タブレット端末をはじめ、ICT機器を効果的に活用した授業づくりをめざします。

■全国学力・学習状況調査のみならず、他調査や日々の学習状況の分析等とおして、より一層の児童生徒理解や学力の定着をめざします。

■家庭と連携し、学習習慣や、家庭学習のより一層の充実に努めます。

■保小中、さらには日野高校との連携をこれまで以上に密に行い、工夫した特色ある取り組みを進めるとともに、地域の人材や素材を有効に活用した、地域とともにある学校づくりに努めます。